

追悼文



下斗米直昌先生を偲ぶ

名譽教授下斗米直昌先生が今冬2月7日、謹厳な人生を終えられた。先生を目指して進学以来、今日も大切な師である。思い出は尽きず、語れば長くなるが、その中から先生を偲んでみたい。

私が先生から初めて教えを受けたのは、雑誌会で先生が行われた論文紹介からである。新事実の部分だけを簡潔に、僅か5分程度で終わらった雑誌会であった。うん蓄をかたむけて、いろいろの視点から紹介されるものと思っていた私は、研究と論文の厳しい姿勢を、無言に教示を受けた。

助手になって間もない私が、演繹的に書いた小文に対して、先生からこの学問は帰納法でないと本当のところが見つからないことを指摘された。タイミングとポイントをつかんで痛烈に急所を戒められ、



田盛秀登先生のご逝去を悼む

名譽教授田盛秀登先生が去る2月16日、77歳でお亡くなりになりました。先生は昭和8年3月広島高等師範学校をご卒業、愛媛県立三島中学校に奉職された後、広島文理科大学数学科にご入学、昭和13年3月同大学を卒業されました。その後、山口県立柳井中学校、海軍兵学校教授などを務めになり、昭和23年5月広島師範学校にご着任の後、昭和50年4月広島大学教授を停年で退官されるまで、広島大学において教育・研究を行ってございました。昭50年4月PL学園女子短期大学教授に就任され、小学校教員養成の仕事にたずさわりながら通信教育部長を務められ、昭和58年3月同短期大学を退職されました。

先生は一貫して算数・数学教育の研究に専念さ

れ、人間味あふれる真摯なご指導によってわが国の算数・数学教育の発展に大きく貢献され、その功績によって昭和59年11月勲三等旭日中綬賞を受賞されました。

理学部 田中隆莊

以後の私の研究法に大きく効いた。咤啄の機をとられた教えであった。いわゆる積み上げた型の論理が身についていったのはそれからである。

先生は1899年（明治32年）4月11日岩手県二戸市に生まれられ、1924年東大理学部植物学科卒、東北大助教授から1929年広島文理大創設時に同助教授、教授、1963年本学停年退官、名譽教授となられた。先生の研究業績の主なものは、キク属ゲノムの同親と異親両和合の併起、交雑における低染色体ゲノムの増加現象、倍数性と生態、キジムシロ類、コンギク類の倍数性、コケ類に性染色体が存在する。

先生が基礎づけられた天然生の植物の細胞遺伝学は、それを継ぎ、発展することによって、先生の教えに報いたいと思う。

学校教育学部 岡田禪雄

れ、人間味あふれる真摯なご指導によってわが国の算数・数学教育の発展に大きく貢献され、その功績によって昭和59年11月勲三等旭日中綬賞を受賞されました。

先生は学問研究以外にテニス、社交ダンス、日本画など多くの趣味をおもちで、しかもそれらがどれもくろうとはだしの腕前でした。日本画は病床につかれるまで楽しんでおられました。私が附属東雲中学校に勤務中、先生は校長の職を四年間務められました。附属教官との会食の折、少しお酒の入った先生が、ほうきを女性に見立て、それを相手にダンスをしておられた様子が、つい先日のことのように思い出されます。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。